

G-1 継続研究、東南アジア三カ国の産業の発展と女子教育の比較(オ8報)

佐賀女短大家政

千綿壽契子

目的 東南アジア三カ国(フィリピン、インドネシア、マレーシア)の女子教育を産業の発展との関連において比較考察する。

方法 文献研究を主とし、一部は現地における、視察調査を加えて、継続研究したオク報までをまとめて、今回は、比較考察の方法をとった。

比較の観点

- (1) 教育制度の比較(領有前の教育、植民地教育、独立後の教育と女子教育)
- (2) 女性の社会的地位(主として就業上の地位を上記の区分別によってみる)

以上を経済体制との関連についてとらえる。

まとめ

- (1) 宗主国の教育政策によって、女子教育、女性の社会的地位に差異を生じる。
- (2) 植民地経済の特色が共通であつても、女性の教育並びに社会的地位は、宗教、歴史、民族性によって差異がみとめられる。
- (3) 植民地政策^において、三カ国とも、言語が教育、就業上の条件となること。